

令和6年6月21日

人間文化研究機構総合地球環境学研究所長の選出について

大学共同利用機関法人人間文化研究機構では、総合地球環境学研究所長 山極壽一氏の任期が令和7年3月31日で満了することに伴い、選考を行った結果、現所長 山極壽一氏を再任することとしましたのでお知らせします。

なお、山極所長は再任のため、機構長が令和7年4月1日付けで発令し、任期は2年となります。

[解禁：令和6年6月21日（金）14時00分]

<問い合わせ先>

大学共同利用機関法人人間文化研究機構

事務局総務課長 小野 亘

直通電話 03(6402)9209

総合地球環境学研究所

広報室室長 岡田 小枝子

直通電話 075(707)2128

略 歴

山 極 壽 一
昭和27年2月21日生

昭和50年	3月	京都大学理学部卒業
同 52年	3月	京都大学大学院理学研究科修士課程修了
同 55年	3月	京都大学大学院理学研究科博士後期課程研究指導認定
同 55年	5月	同 退学
同 62年	1月	京都大学理学博士 取得
同 55年	6月	日本学術振興会奨励研究員 ナイロビセンター駐在員
同 58年	1月	(財)日本モンキーセンター リサーチフェロー
同 63年	7月	京都大学霊長類研究所助手
平成10年	1月	京都大学大学院理学研究科助教授
同 14年	7月	同 教授
同 23年	4月	同 研究科長、理学部長
同 26年	10月	京都大学総長
令和 3年	4月	人間文化研究機構総合地球環境学研究所長 (現在に至る)

※専門分野

人類学・霊長類学

※主な研究業績

- ・令和4年10月 新たな地球の環境倫理を創出するために、
地球システム・倫理学会会報 (17) 15-24
- ・令和5年 4月 共感力の再考ーコロナ後の時代へ向けて、
日本ユング心理学会編『共感力のゆくえ』、15-44
- ・令和5年 7月 今西錦司の思想に西田哲学を見る、西田哲学会年報(25) 1-19
- ・令和5年10月 共感革命ー社交する人類の進化と未来、河出新書
- ・令和6年 2月 森の声、ゴリラの目ー人類の本質を未来へつなぐ、小学館新書

※受賞歴

- ・平成18年7月 大同生命地域研究奨励賞
- ・平成30年4月 日本人類学会功労賞
- ・令和2年12月 京都市特別功労賞
- ・令和3年 5月 南方熊楠賞
- ・令和5年 1月 アカデミア賞
- ・令和5年 2月 京都府文化賞特別功労賞
- ・令和5年12月 京都市文化功労者

【別添】次期所長に選定された山極壽一現所長からのコメント

総合地球環境学研究所の所長再任にあたって



この度、もう2年任期を延長させていただくことになりました。これまで3年余りやってきたことは、いかに地球研の蓄積してきた成果を利用できる形で世に出すか、現行のプロジェクトや未来のプロジェクトにつなげるかでした。そのために終了プロジェクトのリーダーにインタビューし、今昔シンポジウムを開催して新旧のプロジェクトの対話を試みました。研究プログラム評価委員会や運営会議の女性比率を文部科学省が求める水準以上に引き上げました。プログラム-プロジェクト制を強化し、3つのプログラムの中で公募を始めました。審査も熟議を中心に据え、すべてのプロジェクトに多くの助言をいただけるようになりました。また、総合研究大学院大学（総研大）に加入して博士後期課程の大学院生を受け入れるにあたって、任期の定めのない教員を採用して教育体制を整備しました。広報室やIR室の機能強化や、国際発信を高めるために寄附研究部門の上廣環境日本学センターを開設しました。大学や地域との連携を強めるために「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」や京都気候変動適応センターの事務局を務めています。私も大阪・関西万国博覧会のシニア・アドバイザーを務め、その京都構想の座長を仰せつかっております。こういった多様なステークホルダーとの連携によってますます混迷を深めつつある環境問題に対処していかなければなりません。それぞれの試みや挑戦はまだ道半ばといったところで、新しい課題は続々登場しています。これらを国際的な舞台に上げて有効な解決策を練り、実装していかなければなりません。地球研も組織改革をして研究教育部、プログラム研究部、基盤研究部を新たに編成し、学際・超学際研究を強力に推し進める所存です。どうか皆さんの温かいご理解を賜り、地球研の未来へ向けてご助言ご助力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。